

令和7年度第4回高知県環境審議会総合部会議事録

場所：高知城ホール 2階 中会議室

日時：令和8年3月23日14時00分から16時00分

出席者委員：一色部会長、石川委員、岡村委員、濱田委員、横川委員

オンライン参加：常川委員

事務局：環境計画推進課、環境対策課、自然共生課

- 1 開会
- 2 林業振興・環境部 環境計画推進課長あいさつ
- 3 会議録署名委員の指名

審議に入る前に会議録署名委員の指名を行う。

運営規程により部会長が指名することとなっており、「石川委員」と「岡村委員」に
お願いする。

4 議題

- (1) 高知県環境基本計画第六次計画の策定について

高知県環境基本計画第六次計画の策定について、環境計画推進課長より資料1、2
及び資料4に基づいて説明を行った。

休憩

【一色部会長】

計画案とパブリックコメントに対するご意見を伺ってまいりたいと思います。特に計画内容への意見については今回が最後の機会となりますので、修正の具体的な内容を優先して発言いただきますようお願いいたします。

まず、私から全体的なところで修正の提案があります。この修正案は、パブリックコメントに対応する形で考えたものです。現在配布されている資料には含まれておりません。修正案の資料を配布いたします。オンラインの方は後ほど送付いたします。修正案を提出するに至った理由としまして、環境基本計画を考えるにあたり重要な視点である3つの社会、脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会、これに関してスローガン等もありますが、わかりにくいというところがあります。それぞれカーボンニュートラル、リサイクルエコノミー、ネイチャーポジティブ、という象徴するようなキーワードが最近あちこちで使われていると思います。21ページ下の図の3つの社会それぞれにキーワードを併記すると対応関係が明確にわかりやすいのではないかと考えます。また、末尾にある用語集ではネイチャーポジティブの説明はありますが、カーボンニュートラル、リサイクルエコノミーについては説明がないので、合わせて入れていただきたいです。

これは小さな修正ですが、もう一つ大きな修正として、22ページの「めざす3つの社会の実現によりもたらされる県民の幸せウェルビーイングの姿(例)」の部分です。なぜ修正を考えたかという、目指すべきウェルビーイングの中身が具体的すぎるという印象を受

けたためです。

パブリックコメントのご意見の中に全般的にネイチャーポジティブの視点がわかりにくい、もっと中心に据えるべきではないか、独自で政策を作るべきではないのか、という趣旨の意見が詳しく書かれてありました。どのような形で計画案に反映させるかを考えた時に、個別にあちこち修正を加えて細かく精査するというのではなく、県民の幸せ“ウェルビーイング”を目指すことがこの計画であるという趣旨を含ませる修正を、この22ページ部分に施せば、環境基本計画が目指すウェルビーイングがどういうものであるかが明らかになり、そして指摘されている全般的な事項を含ませることができるのではないかと、ということで修正案を作っています。

お配りした資料の中ほどから、オンラインの方もいますので読み上げます。3つの脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の右側の部分を丸ごと差し替える提案です。脱炭素社会は、基本的には原案を踏まえたいうえで一般性を持つような表現に改めています。①気候変動への適応や省エネ住宅の普及により、心身の負担が軽減され、健康で快適な生活が維持される、②再生可能エネルギーの普及やエネルギー自給の向上により、災害時も含めて生活の安定性や安心感が高まる、③エネルギー利用の効率化や再エネ普及により、長期的なエネルギーコストが安定する。

循環型社会は、パブリックコメントの内容を反映させています。①清潔で快適な生活環境や過剰消費を抑えた持続可能な暮らしが広がることで、心身の健康や生活の満足度が高まる、②循環型産業の発展により、多様な働き方や新たな雇用が生まれ、地域経済が活性化する、③学校や地域での資源循環の取り組みを通じて、世代を超えて協力し合う文化やコミュニティの一体感が育まれる。

自然共生社会は、ネイチャーポジティブの考え方をはっきりわかるように入れてあります。①健全な自然との触れ合いにより心身の健康が促進され、自然の回復により人の健康を支える循環が持てる、②地域の自然環境を回復・再生する地域づくりを通じて、共に生きる地域社会の一員としての誇りと、未来へ自然を引き継ぐ責任感を育む、③自然観察や自然再生体験を通じて生きる力を育み、高知県固有の自然を未来へつなぐ新たな環境価値の創造に寄与する。

これらを考えてみました。どう取り扱うかは県次第ですが、ウェルビーイングに関しては新たに提案することでもあり、極めて重要な項目であるのでパブリックコメント等の内容を踏まえて修正していただくのが良いと思います。私からの全般に関する提案は以上です。

【事務局】

ありがとうございます。21ページの図について、3つの社会それぞれにおいて、カーボンニュートラル、リサイクルエコノミー、ネイチャーポジティブの表現の追記のご提案いただきました。それぞれの部署がいますので後程説明させていただきますが、まず脱炭素社会につきましてはおっしゃるように最終的に目指すのがカーボンニュートラルでして、県も掲げているところですので追記をさせていただこうと考えております。用語解説についても、我々は日々使い込んでいますが、県民の方に分かり易くという意味で記載させていただこうと考えております。

合わせて、22ページのウェルビーイングの姿のところでご意見をいただきました。表に

ついで例という形で書いているように具体例で書かせていただいていた中で、一色会長からご提案いただきました。抽象的かつ県民の方がどういった社会やウェルビーイングを目指していくのかを表現していただいています。脱炭素社会の欄につきましてはいただいたご意見踏まえて、最終の判断をしたいと考えております。循環型社会のところについては環境対策課からお話します。

【環境対策課】

21 ページの循環型社会の実現、リサイクルエコノミーについてご提案いただいております。我々の方ではごみの減量、3Rの適正利用、適正処理などのリサイクルを推進しております。そういうところはサーキュラーエコノミーという記述になるかと思えます。持ち帰って検討させていただきたいと思えます。22 ページについてもより分かり易い記述にさせていただいたとすることで、検討させていただきたいと思っております。リサイクルエコノミーというよりは、目指すべきはごみの減量や、長持ちする製品を作るなど、産業の推進というところで、出来ていないと言われてしまえばその通りですが、循環型社会を実現していくというのであればサーキュラーエコノミーということになるかと思えます。

【一色部会長】

サーキュラーエコノミーでいいと思います。

【自然共生課】

21 ページと 22 ページの自然共生社会、ネイチャーポジティブについて具体化してご提案いただきました。ご提案いただいたとおりに修正させていただきます。

【石川委員】

(資料 2) パブリックコメントの 12 ページ、66 のところに記載されていることなのですが、基本計画 1、116 頁につけ加えさせていただきたいことがございます。基本計画なのであまり細かく記述するのはいかがなものかと思えますが、施策 2 の環境学習を推進するための人材育成について、生物多様性こうち戦略推進リーダー制度を作って、今 130 名程度に到達しています。そのリーダーを認定するだけではなく、リーダー同士の交流や情報交換を進めることによって資質の向上に繋がり、モチベーションが上がることを目指して、えこらぼが中心となって進めてきています。基になる活動の起点になるリーダーさんがやっている団体があるのですが、若い人たちがこれに参入して少しグループが出来ています。若い人たちが自主的に取り組もうと思って始めている組織が、継続的に盛り上がっていきけるような支援が必要です。ここには予算的な話だけではなく、リーダーが組織を継続させて、さらに仲間を増やし、他団体と連携をしながらお互いを高めあっていくといった、好循環を私は期待していますが、そういう内容をここに盛り込めないかというのがあります。リーダー同士の情報交換・連携によって盛り上がっていくと思っております。できれば、予算のことは書きたくないですが、豊かな環境づくり総合支援事業費補助金への応募団体数が当初よりもずいぶん減りました。ハードルが高く、応募してくれる団体数が少ないので使い勝手の悪い補助金と認識されていることが理由です。そのため予算が徐々に減らされてしまいま

た。環境審議会の方でも意見を出したことがあるのですが、予算をこれから拡張していただき、少なくとも元に戻して欲しいです。今えこらぼの方で事務局をやっていますが、ここ2～3年は非常に応募数が増えています。私が所属する団体も補助金を申請しておりましたが、最近では若い人たちに予算が回るように遠慮していることもあります。それだけでは広まりきらないので、ぜひ予算拡充を盛り込むことを考えていただきたいと思います。

【自然共生課】

116 ページについて、予算的な面は、毎年変わるものですので、計画上に具体的な金額は書けないのですが、支援ということで追記をさせていただこうと思います。

【事務局】

ご指摘ありましたように、基本計画は全体の大きな方向性を示させていただいているものの中で、自然共生課からも申し上げましたとおり、毎年度の予算といったことは、書きづらいというのが正直な所です。今いただきました横のネットワーク作りや、次の世代への継続性という視点は、計画の中でもしっかりと位置づけて、状況によって限られた予算になるかもしれませんが、その中で何ができるかというのを我々行政なり関係する皆様と協力しながら進めていく、というところで整理をさせていただけたらと思います。他の項目においてもそういった点で予算についてあまり触れられていないと感じられるかもしれませんが、視点として今いただいたような、今後もそれを継続していく、あるいは広めていくことが県民のためになるという点については追記をさせていただきたいと思います。

【岡村委員】

具体的な話をせよと言われましたが、やはり色々なものが出てくると全体を包含しているフィロソフィーという考え方、根底・根拠が曖昧でイライラするところがあります。

申し訳ないのですが、例えば今石川委員が言われたように130名ぐらいのリーダーを養成していただいているということで、やはり周りの方々の力が大きいと思います。パブリックコメントを見てみても3分の1から半分ぐらいは横断的に子どもの時にどういった経験、教育をしているかが、高知県の環境にとって大事かということが書いてあります。

ただ、もう一方の大きな問題は、書く必要ないですが、高知県は年間1万人亡くなっていて生まれる人は3,000人しかいないです。これは大変大きな問題で、どこかに一言あってもいいのではないかと思います。ベースを無視してやると具体性がなくスローガンになってしまって、環境基本計画といっても考え方だけで先行しても現実が伴わないです。パブリックコメント中にもなぜこんなに数が少ないのかと書いてあるコメントがありまして、これは予算がないからだよとわたしは思っていたのですが、ある程度先に言われたように、関連の予算とか審査が厳しい等あるのでしょうか、何かうまい表現は出来ないのでしょうか。

人口の問題は、環境問題のベースを揺るがす問題で何とかしないとイケない。一方で130名ぐらいの自然を学ぶ、専門性を持ってアドバイスできる方を増やしていただいている。これが150人になると、1人当たり子どもたちに対する役割としては1人で20人やれば、高知県の3,000人の子どもたちに行き渡るわけです。子どもがどんどん少なくなっていて、

その前に結婚の問題があるのかもしれないですけども、この大きな問題を全体を通してなにか匂わせることはできないのかなと思います。戦略的な、もっとベーシックなところで全体の問題点として考えていかないと、それが抜けているとスローガンというか数値目標だけが独り歩きしてしまう気がします。

【事務局】

県の人口動態につきましては12ページで触れさせていただいています。88万人のピークから現在65万人と20万人以上人口減少していると入れています。様々な取組の中で人口が減ったことによる影響はたくさんあるということで各項目においては、すこし触れられているところもございます。91ページの里地里山の保全において人口の減少、担い手が少なくなっているところを個別の課題として上げさせていただいている。全体の中で様々な取組をする中で当然人口減少というのは大きな基礎となる部分ではあると思います。我々の取組の中でもその点は意識しながら取り組んでいきたいと思っています。環境基本計画の中で触れている個所というのは、最初の全体の人口と個別の取組での課題ということだけになっていますが、県の方では人口に対する新たな計画を立てながらしっかり取り組んでいくというところがございますので、そういった計画と連動しながら取り組んでいきたいと思っています。

【岡村委員】

人口動態に対する意見は前に述べさせていただいて、はっきり書いていただいたというのは1つの進歩だだと思います。これがないと具体性をもってどこにどういう予算を付けるか、という戦略も見えてきません。したがって、こうしたベースにさせていただいた計画を県民の方々に出せるということは、一つのプラスになったのかと評価をしています。ただ、深刻なのは1万人亡くなって3,000人しか生まれない高知県の現実をしっかりと認識していただかないと、人口減少というのは聞き飽きた言葉で、日本全体で起こっている問題であって、高知県でも高知市一極集中で、田舎では人がいないため人が死んでいても、何日も気づかないところが出てきています。わかったような言葉で理解するよりも具体性ではっきり数値を書いていた方が、もっとショッキングな事実があるわけですから、これからの高知県の環境情勢全体に対するベースをしっかりと持つという点で、県民が知るために書いていただいた方が良いと思います。抽象的な言葉や、昔から使われている言葉ではなくてショッキングな言葉を使うのは良いのではないかとあえて提案させていただきます。

【一色部会長】

資料2の9ページ、45・46のところです。リジェネラティブツーリズムについて、県の考え方としては早々に切り替えるのではなく、将来的にリジェネラティブな考え方にしていくということでした。この計画は5年間の計画であって、将来というのは5年間に含まれるように思います。92ページの施策2の部分にいわゆるグリーンツーリズムなどを通してとありますが、ここの部分をいわゆるグリーンツーリズムや再生可能な観光、いわゆるリジェネラティブツーリズムなどを通してとするように加えたらいいのではないのでしょうか。そもそもリジェネラティブツーリズムとは何かという用語の説明を入れる必要もあります。

将来的にということですが、新しい概念として計画書に出してもいいのではないかと思います。

【事務局】

観光部局の方といただいたご意見を踏まえて追記について検討いたします。

【濱田委員】

資料4のダイジェスト版について、6ページから上の方に戦略が書かれていると思います。これが白文字で大きさも少し大きい程度で目立たないと思いました。5ページに5つの戦略と書いていますが、目立たないので色を変えたり、もう少し目立つように色を変えるなど工夫していただければと思います。

【事務局】

全体の文字量の関係でフォントがどこまで上げられるか、というところもございすが、視認性についての非常に重要な指摘だと思います。もう少し検討させていただきたいと思います。環境の計画でありますので、小さいお子さんにも見ていただけるように緑の絵を載せたいというところがあります。背景がカラーですと白文字が目立ちますが、ページによっては現時点でも文字が過密状態です。戦略1から5までのフォントサイズを合わせることは難しいと思われすが、視認性について再度検証して最終ダイジェスト版を作っていくと思います。

【一色部会長】

関連しますが、表紙の色について、現在グリーンですが第五次で作成したもの今、手元にありますか。青から緑へ変更されるのですか。

【事務局】

変えます。

【横川委員】

第1回の総合部会で新しい用語の自然資本経営というものが出てきて、質問させていただきましたが、パブリックコメントでも同じような疑問・意見が出ています。自然資本経営という言葉を使うと、人間の為の投資というイメージが強いのではないかと、これが独り歩きすると困るなど話をしたかと思ひます。分かり易く変えてくださっていて、24ページで方向性についても具体例をきちんと挙げてくださっているのだから、ちゃんと読めばわかります。

しかし、しっかりと読み込んでいく人がどれだけいるかというのが少し心配で、見出しで自然資本経営と大きく出ていて、3つのポイントで整理しますとなっているが、この3つのポイントを強調して具体例が次のページから出てきます、と書いたら誘導できるのかなと思ひました。パブリックコメントを見て私の意見と同じようなことを思う人がやっぱりいるのだなと思ひました。そういう誤解がないように中身を変えていくのは大変なので、フォントや色などで工夫して読みやすくしたらいいのではないかとと思ひました。

【事務局】

イメージとして人間の為のということではなくて、自然資本の維持回復を充実させていくということでの循環という意味の経営です。ご意見いただきまして議論させていただいたうえでのことですが、経営という一般的に使われている言葉のイメージがありますのでご指摘の部分をお踏まえて、改めて視認性と言いますか、ポイントの部分を伝えられるような工夫をしていこうと思います。

【常川委員】

感想になりますが、4県の環境基本計画や実施の内容の情報を拝見する機会があります。今回の指摘の事項や、パブリックコメントの内容は高知県らしいと感じました。高知に住んでいる人の実感としてこういうコメントが出てくるというのが良さでもあり、今後伸ばしていく方向性として良いのではないかと思います。その中で今後、この計画へ修正を加えながら進めるという中で、私たち委員や関係者、県の職員の方も勉強しながら取り組んでいく姿勢を持つ必要があると思いました。

あともうひとつ、前回の計画の中には協働という考え方があったように思いますが、今回は経営という用語が多くなっています。そのことで、市民性が弱くなることが懸念されます。ただ、今後の社会的な流れの中で、経営だけで解決できない時代になっています。少子高齢化などの社会課題をお踏まえ、誰が誰とどうやって課題解決するのかというところをもっと真剣に考えていく必要があります、策定のプロセスにもこだわっていけばよかったという思いがあります。今後の改正に向けて、今回の手段の部分に共進化という言葉が出ていました。それをどう捉えるのか、どうやって、という部分を深める必要があります。課題をどう解決していくのか、小さな成功事例であってもそれを活かして良い計画につなげてほしいです。

【事務局】

先を見据えたご意見が出てきたということをおどう扱うかですが、今後取組の検証も必要ですし、そういった取組にはステップというものがありますので、現時点でのステップとしての書き方にとどめているというものもございます。パブリックコメントの良かったところは、関係部署に一旦こういったご意見をいただいているというのを共有化して、それについて考えるというのがまず第一歩とお思っておりますので、当然今後も参考にさせていただきますと考えております。

また、今後の環境審議会におきましては、それぞれの取組のKPIを検討する、あるいは新たな取組についての視点、事務局から報告または委員の方からのご意見を頂戴しながらブラッシュアップしていくことが必要と考えております。個別の計画の取組みも含めて、今回いただいたご意見を参考に進めていきたいと考えております。

また、協働の視点や、誰がどう解決していくのかということについては、ご指摘のように十分に深め切れていなかった部分もあろうかと思ひます。この計画をおどう回していくか、ということに関しましては、計画の推進として129ページ以降に掲載もさせていただいております。まずは取組自体を進めていくというところにおいて、県あるいは県民だけではなく、それぞれの活動で持っているリソースをお活かし、全体の円として捉えながら進めていく

ことを今回お示しさせていただきました。具体的にどう取り組むかというのは、各主体の主な役割というのをこれまでの第五次計画より詳細に書かさせていただいたうえで、131 ページの進行管理において、環境審議会あるいは個別の各取組・計画におけるしっかりと PDCA を回しながら計画を進めていきたい、この計画を絵に描いた餅ではなくさらに磨き上げていきたいと考えています。ご意見ありがとうございます。

【岡村委員】

資料4のダイジェスト版12ページの絵を見てください。真ん中の山から海への絵ではCO₂ばかり出ています。大事なのは、地球型惑星において、宇宙の中で地球だけはCO₂を吸収することによって酸素を出す光合成があり、動物の住める環境ができています。非常に重要な、酸素を出すというのも絵にさせていただきたい。酸素があるのは地球の特徴です。これはCO₂を取ってくれたおかげで石灰岩というかたちでCO₂とカルシウムを使って固定して、CO₂を下げていったわけです。0.03%ぐらいから0.09%になって今大騒ぎしていますが、地球史からすればちょっとした変化です。いずれにしてもCO₂も大事なのですが酸素を出す機能も絵にした方が、子どもたちも大人も理解しやすいと思います。酸素がないと我々は生きられないというのをはっきり言った方がいいと思います。

【石川委員】

同じところで、大事なのはミネラルのことです。黒潮はすごく栄養素が乏しいのに、なぜ高知県の沿岸がこんなに豊かな資源があるのかということ、森林が作り出したミネラルというところがあります。ここにはミネラルが書かれていません。「M」でもよいので追加いただければと思います。

【事務局】

イメージ図で書いた時に、カーボンニュートラル的な絵になっています。その中で環境基本計画における森林というものの大事さや、農業は高知県の強みであり、CO₂も固定化するし、酸素も出す。あるいは環境負担のない農業等に取り組むことによって適正なミネラルが川や海に流れていくというところを、この絵でどこまで表現できるのか、というところがあります。もしこの中で使うとしたら、少し連携する形になると思います。CO₂の固定というのを考えた時に、こういったことも考えられるよねというのをイメージとして伝える。あるいは、このページで触れているのは、大きくは森里川海の繋がりの部分で示していますので、その点でこの図に差し替わる、あるいは、いただいたご意見のような酸素やミネラルというのがわかる様な表現を検討します。これを手に取った方が文章を見てイメージするときに、非常に重要な要素をおっしゃったと思いますので、それが分かるようなものにするか、あるいは先に申し上げたように少し限定的に、例えばCO₂についてはこうです、とするのかなど検討させていただこうと思います。

【濱田委員】

ダイジェスト版の1、2ページにある左下の綺麗な色の団子のようなものはサンゴでしょうか。サンゴ礁なんですかね。右側にあるこれと同じような灰色の石が重なっているもサ

ンゴですか。

【事務局】

どちらもサンゴです。

【岡村委員】

今の絵もそうですが、私はずっとこの総合部会で「おいしい高知県」をキーワードにしてはと言ってきました。私は九州の田舎の育ちですが、高知県ほど食べ物の豊かなところはないです。それを県民は知らないのではないかと思います。絵の中には食べ物少し少ないのではないのでしょうか。私としては、「おいしい高知県」は素晴らしいものだと思他県の間人として感じます。

【常川委員】

細かい話ですが、ダイジェスト版の12ページの下図のことで、ここの国全体のという表現を国ではなくて「国土」という言い方がいいのではないのでしょうか。あと、循環を取り戻すという言い方であると、今は循環がないというようにみえるので循環の力を強化する。良い循環をたくさん作るなどの表現にした方がいいのではないかと思います。循環を取り戻し、という表現が2カ所あったのでそこを検討いただければと思います。

【事務局】

ご指摘いただいた点については、必要な箇所は修正したいと思います。

【石川委員】

(資料2) 10ページの58について、「みどりの食料システム戦略」のパブリックコメントがあって、計画案に追記されたのは105ページのこれまでの取組の箇所かと思います。パブリックコメントの中に、バイオ炭施用等による土壌炭素貯留の推進とあります。高知大学の農学部で一生懸命やろうとしていたことがあります。うまくいっていないようです。なかなか重要な取組ですが、地味な活動なので、事業ベースの拡大を応援することを記載することも検討いただきたいです。今、高知県では里山の荒廃が叫ばれていて、放置竹林がどんどん増えています。タケノコや竹の資材としての利用がなくなってしまったので、整備されず放置されっぱなしです。高知県の里地里山の自然環境を劣化させている大きな1つの要因ですので、それに対する県の取組を一貫して進めていただきたい。昔、竹林の拡大速度を調べたことがあるのですが、緩傾斜のところ、1年に約2メートル拡大しています。急傾斜地でも1メートルから1.5メートルぐらいでもすごい勢いで拡大しています。それを止めるための事業はなにかありますか？

【事務局】

58について、関係部局に照会を立てたうえで、石川委員のおっしゃったように、またバイオ炭についてもこの2つ目の「なお書き」以降にもありますように、まさに費用対効果の検証が必要な取組というのがあります。一方で、本県も炭素貯留効果の調査を進めようとい

うところですので、今回起算については大きく捉えようことで、具体のバイオ炭までは書いていないですけれども、その点について形式的には整理としては載せないという形になっております。本日ご意見いただきましたので担当部局に確認いたしまして、体裁については検討し、書面になるかもしれませんがまたご報告させていただきます。竹林に関する指摘もございました。確かに放置竹林については森林において課題になってきているところです。対応については県内で新たな産業の一つとして、竹からプラスチック代替材を作る工場もできております。まずは、利用価値の低く価値にならないものを環境に優しいものに変えていくという取組を進めています。需要が伸びるようになったら、竹材を効率的に収集していくよう、県として施策の研究を進めているところです。竹林から新たな高知県由来の環境に優しい製品を作り、同時に竹林の適正な整理を行うことによって、森林の回復につなげていくといういい循環になるというものです。まだ始めたばかりの取組で、工場の稼働も令和7年度からの稼働となっていますので、産業としての支援をしつつ、森林の保全と収集にしっかりと取り組んでいけるようにしたいと思います。

【一色部会長】

他になればここで意見交換の時間は終了させていただきます。全体として大きな修正もありますので後日事務局から修正案を各委員の方に送らせていただいて確認をいただき、改めて意見を反映した最終案については私が確認したうえで、環境審議会の印を押させていただきます。

今回詳細なパブリックコメントをいただいて、審議会で我々委員が気付かなかった視点も含めて参考にしていただければと思います。ただ、現在のパブリックコメントはほとんど修正の余地のない最終案を提示して意見をいただくという形になっているのがほとんどです。できればパブリックコメントの提出をもう少し早い段階でして、十分に審議会でパブリックコメントの内容の検討を踏まえて、反映できるスケジューリングをしていただければと思います。行政手続きの都合もありますので、ご検討いただければと思いますが、私の記憶する限り、最終案でこれだけ大きな修正が加わったというのは初めてだと思いますので、そういうことがあり得るという想定でスケジューリングをしていただくのが良いのではないかと思います。

以上を持ちまして令和7年度第4回高知県環境審議会総合部会を閉会いたします。